

2025年7月29日

資源循環の取組を中心とした 万博の持続可能性の取組

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
持続可能性局長 永見 靖



大阪・関西万博と持続可能性



2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）開催概要



- 大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現する様々な参加形態や事業、会場のデザインを含む会場計画、運営計画、資金計画等をまとめた協会のマスタープラン「基本計画」を2020年12月25日策定・公表
- 基本計画に基づき、参加国、国際機関への招請活動や企業・団体・自治体・市民団体等の参加と共創を促進するとともに、各事業の実施計画の策定や具体的な取り組みを推進

開催概要

名 称

2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）

テーマ

いのち輝く未来社会のデザイン

サブテーマ

Saving Lives（いのちを救う）

Empowering Lives（いのちに力を与える）

Connecting Lives（いのちをつなぐ）

コンセプト

People's Living Lab（未来社会の実験場）

会 場

夢洲(ゆめしま)（大阪市此花区）

開催期間

2025年4月13日～10月13日

想定来場者数

2,820万人



大阪・関西万博の開催地



会場配置計画



持続可能な万博開催にむけた取組

2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)基本計画における持続可能性の取組

基本計画では、持続可能な万博運営にむけた取組として、
「サステナブルな万博運営」「インクルーシブな万博運営」について記載。



サステナブルな万博運営

会期前の計画段階から会期中、会期後にわたり、脱炭素社会の構築や循環型社会の形成、自然との共生や快適な環境の確保に取り組み、サステナブルな万博運営を実現する。

温室効果ガスの排出抑制に取り組むとともに、リユース・リサイクル可能な部材の活用等3Rに取り組む、資源の有効利用を図る。

インクルーシブな万博運営

世界各国、多様な人々の協力により成立する万博では、来場者やスタッフを含む多種多様な参加者が安心して参加できる環境を整え、本万博から多様な考え方を発信できるよう、インクルーシブな万博運営を実現する。

本万博に携わるスタッフの就業環境の整備等、参加者一人一人を尊重した万博運営を目指す。

持続可能性管理システム(ESMS)

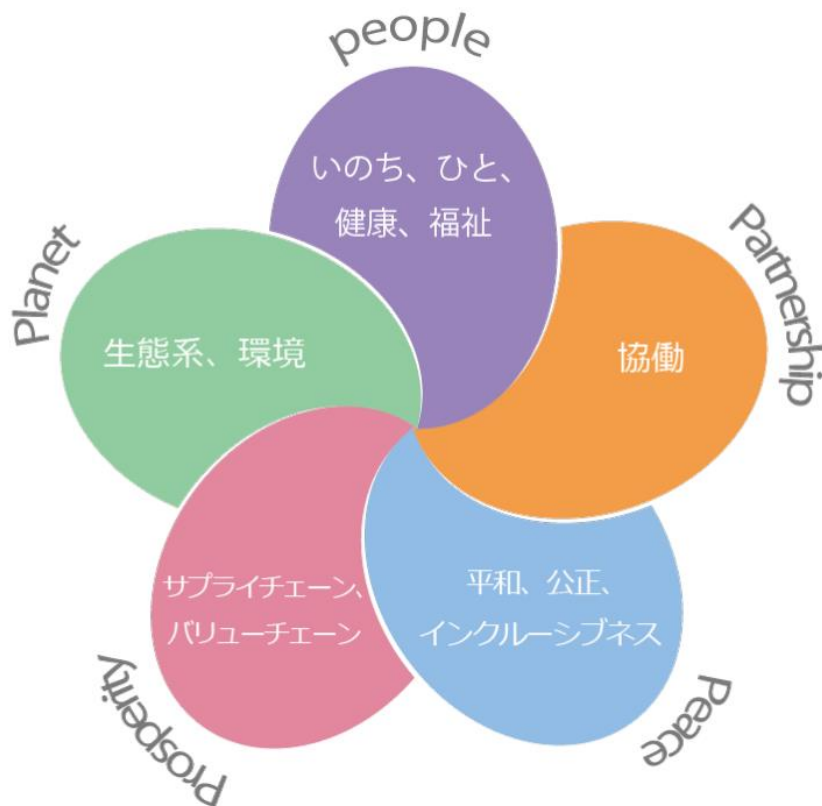
大阪・関西万博では、ISO20121への適合を視野に入れて、イベントの持続可能性管理システム(Event Sustainability Management System, ESMS)を構築、2023年4月から運用中。

※ISO20121:イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステム(ESMS)の国際標準規格。



「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」(持続可能性方針)

大阪・関西万博は、その運営においてもSDGs達成を実現するため、環境や社会への影響を適切に管理し、持続可能な万博の運営を目指す。



People (いのち、ひと、健康、福祉)

生態系を構成するすべての「いのち」を守り育てることの大切さを訴求する。

Planet (生態系、環境)

国際的合意（パリ協定、大阪ブルー・オーシャン・ビジョン、昆明・モントリオール生物多様性枠組）の実現に寄与する会場整備・運営を目指す。

Prosperity (サプライチェーン、バリューチェーン)

「もの」だけでなく、「生活」を豊かにし、可能性を広げることにつながる社会や環境に関する知見をレガシーとして、次世代に継承する。

Peace (平和、公正、インクルーシブネス)

多様な人々が積極的に、また安心して参加できる環境を整えるとともに、大阪・関西万博からテーマに基づく多様な考え方を発信できるよう、一人一人を尊重したインクルーシブな万博運営を目指す。

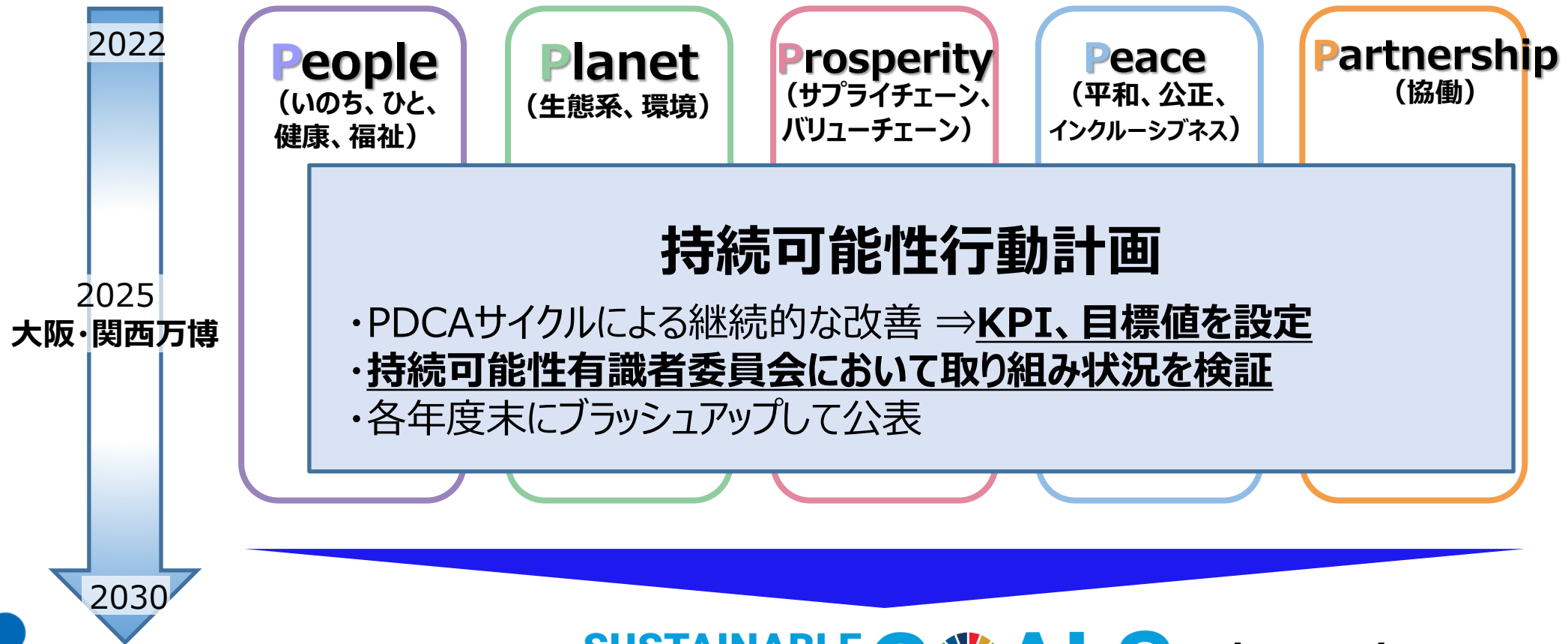
Partnership (協働)

誰もが参加でき、自由にアイデアを交わせる機会を提供する。その中で一人一人がつながりコミュニティが形成されることを目指す。

持続可能性有識者委員会でご議論いただき、2022年4月27日に決定、公表した「持続可能な大阪・関西万博開催にむけた方針」に基づいてイベントの持続可能性マネジメントシステム(ESMS)を構築。

持続可能な大阪・関西万博開催にむけた行動計画（持続可能性行動計画）

マネジメントシステム(ESMS)では、KPI、目標値を定めてその達成状況、達成方策の立案の進捗状況を検証し、行動計画という形にまとめる。計画は各年度末に改定。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS** +beyond

大阪・関西万博の持続可能性の取組①

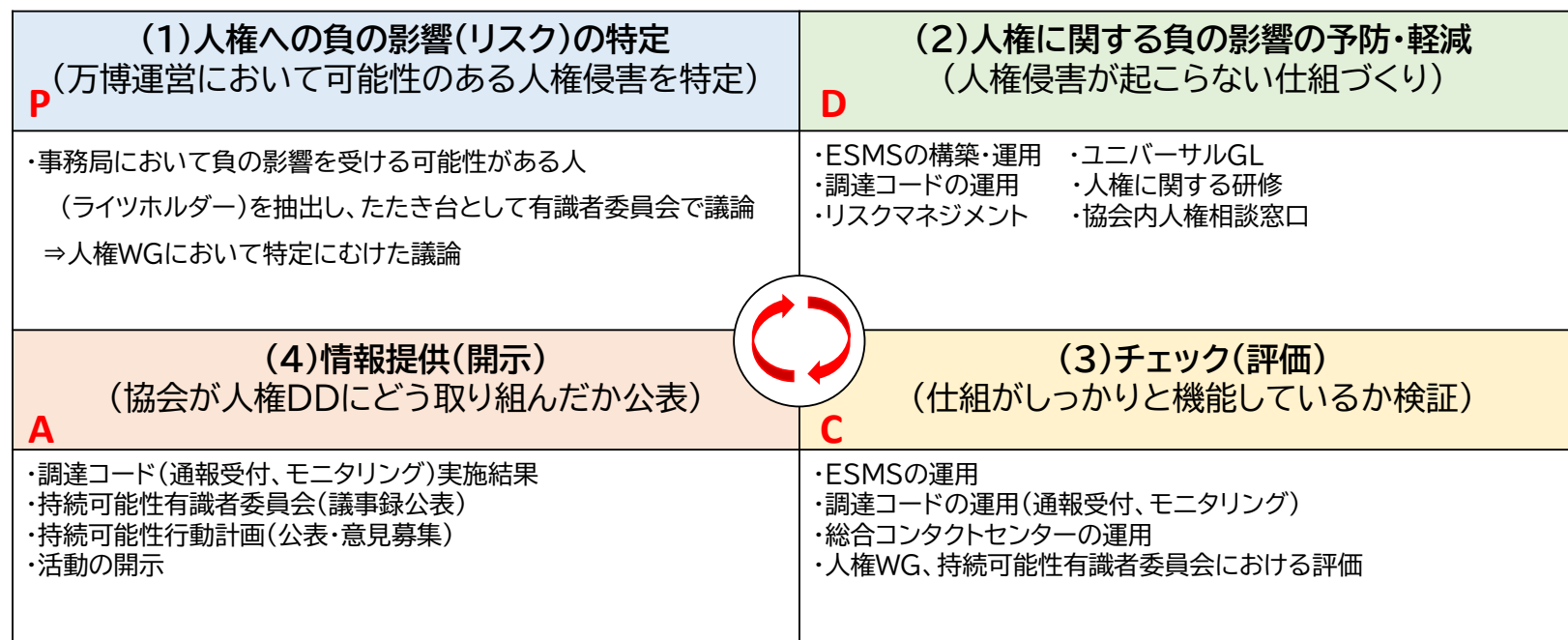
持続可能性マネジメントシステム(ESMS)運用における目標、取組



(1)人権デュー・ディリジェンス（人権DD）を実施する初の万博

博覧会協会は、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」が実現されるために、万博に関わる一人ひとりの人権が尊重される必要性があることを認識し、人権尊重の取組として人権DDを実施する。

また、2030年をゴールとする「持続可能な開発目標」（SDGs）を達成すべく、博覧会事業に携わるすべての人の人権を尊重するとともに、人権尊重に関する様々な展示や各種の催事などを通じ、テーマに基づく多様な考え方を国内外に発信し、会期後も社会に広く普及していくように努める。



博覧会協会における
人権DDの考え方



(2)ユニバーサルデザイン・ユニバーサルサービスガイドラインに基づいて運営する初の万博

「ユニバーサルデザインガイドライン」に加えて、日本で初めて運営サービスに特化した「ユニバーサルサービスガイドライン」に基づいて会場を運営し、より高品質な「アクセシブルでインクルーシブな博覧会」を実現する。

建築物のユニバーサルデザインについては、バリアフリー法に基づく基本方針において、2025年度に床面積の合計が2,000㎡以上の特別特定建築物で『国の最低基準』を満たす建築物を67%にする目標を掲げている。

大阪・関西万博では、原則として、会場内のすべての建築物において国の「望ましいレベル」以上のユニバーサルデザインを目指す。

さらに、万博としては初めてユニバーサルサービスについて独立したガイドラインを定め、大阪・関西万博を訪れるすべての人が安全・安心に過ごすことができ、様々な展示やイベントを楽しく鑑賞・観覧し、そして参加することができる運用方法の指針を示すことで、多くの来場者が会場に訪れ、誰もが楽しいひと時を過ごすことができる大阪・関西万博を目指す。

ユニバーサルデザインガイドラインの基準設定の考え方

規制(Control)	推奨(Guide)
「～すること」「～しなければならない」事項を示しており、法的拘束力の有無にかかわらず、遵守すべき整備基準として定義する。 法で定められた基準に加えて、『Tokyo2020 アクセシビリティガイドラインにおける標準基準』、『国の推奨基準』、『国の遵守基準を上回る大阪府条例等の整備基準(望ましい整備)』のうち最も高い水準を基本に設定。	「～することが望ましい。」事項を示し、より安全かつ円滑な移動等の実現とともに、来場者の利便性の向上や快適な利用ができるように備えることが望ましい基準として定義する。 『Tokyo2020 アクセシビリティガイドラインにおける推奨基準』、『大阪府条例等による望ましい整備』の水準、『高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準(令和3年3月)』の設計標準(望ましい基準)、障がい当事者の意見等を総合的に勘案して設定。

ユニバーサルサービスガイドラインの基準設定の考え方

規制(Control)
「～すること」「～しなければならない」事項を示しており、法的拘束力の有無にかかわらず、遵守すべきサービス基準として定義する。 法で定められた基準に加えて、『IPCアクセシビリティ・ガイド』『ユニバーサルデザイン2020行動計画』、『施設整備に関するユニバーサルデザインガイドライン【改定版】』を参考に設定。 【基準の例】 (視覚で情報が得にくい人への対応) C3-3-2. 開催者、公式参加者、関係者は、視覚による情報が得にくい人に対し、触覚と聴覚など視覚以外の感覚で同程度の情報が得られるように準備すること。 対応策(例) ・音声解説装置の導入 ・点字の付与 ・2次元コード等による情報提供

インクルーシブな万博運営に関する指標

ユニバーサルデザインガイドラインにおける基準の概要

ユニバーサルデザインガイドライン

バリアフリー法・条例

適用される 基準	国の「望ましいレベル」以上	・最低限の基準(建築物移動等円滑化基準)※適合義務 ・望ましいレベル(建築物移動等円滑化推奨基準)※努力義務
-------------	---------------	---

「望ましいレベル」以上のユニバーサルデザイン

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」(バリアフリー法)においては、一定規模以上のものに対して適合義務がある「建築物移動等円滑化基準」とすべての建築物に対して、達成することが望ましいレベルの基準として「建築物移動等円滑化推奨基準」がある。

国においては、これを67%以上の建築物が達成することを目指しているところ、大阪・関西万博においては、すべての建築物が「建築物移動等円滑化推奨基準」を達成することを目指す。

建築物移動等円滑化基準・望ましいレベル(推奨基準)の例

	建築物移動等円滑化基準	望ましいレベル(推奨基準)
案内設備に至る経路	道等から案内板や案内所に至る経路には、視覚障害者誘導用ブロックを設置するか、音声による誘導装置を設ける	
廊下幅	120cm以上	180cm以上
手すりの設置	片側	両側
スロープ勾配	1/12以下	1/12以下 (屋外は1/15以下)



出典 国土交通省webサイト「建築物のバリアフリー化に係る制度の概要」より抜粋
(<https://www.mlit.go.jp/common/001198300.pdf>)

カーボンニュートラル実現に関する指標：低炭素な会場からグリーンチャレンジを世界へ 温室効果ガスの排出量推計と目標設定(Scope1,2相当(会期中の会場内での排出等))



大阪・関西万博の温室効果ガス排出量の算定は、国際博覧会および国内の大規模イベントとして初めてGHGプロトコルを主たる方法として参照し、東京2020大会やドバイ博を参考に大イベント固有の排出も入れて行う。

Scope1,2相当（会期中の会場内での排出等）の排出量は、省エネを行うとともに排出係数がゼロとなる電力を使用することで削減する。ガス、軽油や会場外の電力使用については省エネ、電化、バイオディーゼルの導入等で削減し、手段がない部分についてはカーボンクレジットで手当てして、カーボンニュートラル達成を目指す。

Scope	排出源	GHG排出量 [t - CO ₂ e]	省エネ努力以外の主な削減方法
1	会場内の施設で使用する燃料	4,979	—
	会場内輸送で使用する燃料	162	電気自動車(EV)の導入や 合成燃料、バイオ燃料の使用等
	会場内、会場外の施設におけるエアコン稼働による フロン漏洩	72	地球温暖化係数の小さい資機材の利用を推奨
2	会場内、会場外の施設で使用する電力	31,080	排出係数ゼロの電力の使用
	会場内輸送で使用する電力	9	排出係数ゼロの電力の使用
	博覧会協会事務所、会場外駐車場で使用する電力	2,527	排出係数ゼロの電力の使用
	博覧会協会事務所（咲洲・ATC）で消費する熱	302	—
合計		39,133	

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。排出量は削減対策をしなかった場合(BAU)で予算や事業の計画から推計したもの。



カーボンニュートラル実現に関する指標：低炭素な会場からグリーンチャレンジを世界へ 温室効果ガスの排出量推計と目標設定（Scope3相当（会期前後や会場外の排出））



大阪・関西万博のScope3相当(会期前後や会場外の排出)の排出量は、GHGプロトコルに従いつつ、東京2020大会等を踏まえ来場者の移動、宿泊等の排出量も算入。

Scope3相当の排出量の削減については、建物の再利用、食品ロス削減、プラスチックの利用削減、移動時排出量のクレジット購入促進等により対応する。また、会場建設中に重機等で使われる軽油、夢洲会場へ直接アクセスする交通による排出量については、クレジットでのオフセットなども含めて注力する。残りの排出量については、会場外でマイボトルの使用、食品廃棄物削減等会場外での削減努力を行う契機として、万博のレガシーづくりにつなげる（グリーンチャレンジ）。

カテゴリ	排出量 [t-CO ₂ e]	削減方法
カテゴリ1（購入した製品・サービス）	113,974	調達物品等の製造・流通等におけるエネルギー低減や低炭素エネルギーの利用を推奨
カテゴリ2（資本財）	361,700	リース、木材の積極的な活用 低炭素型素材等の積極的な活用
カテゴリ3（Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動）	14,283	—
カテゴリ5（事業から出る廃棄物）	2,749	食品ロス削減、食品リサイクル プラスチックの利用削減（リユース食器等）
カテゴリ6（出張）	3,545	排出量の少ない移動手段の利用
カテゴリ7（通勤）	2,533	
カテゴリ12（販売した製品の廃棄）	167,343	建物、機器の再利用 リースの積極的な活用
その他：来場者 （国内・海外から計2820万人を想定）	2,858,622	排出量の少ない移動手段の利用 来場者用シャトルバスのEV化、合成燃料等の導入
合計	3,524,747	

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。排出量は、対策をしなかった場合の排出量推計値（BAU）

サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 資源循環に係る排出量推計と目標設定（会場運営関係）

2005年の愛・地球博や直近のアミューズメント施設の排出量から対策をしなかった場合の廃棄物の排出量を種別に推計した（BAU）。今回の改定では、使い捨て食器の使用量削減やマイボトルの持ち込み推奨等による排出量の削減目標を掲げ、BAUに対して各種廃棄物の削減対策による削減対策後の排出量を推計した。

また、リサイクルに関しては、分別可能物は100%リサイクルを目指すとともに、燃やすごみと燃やさないごみ/混合廃棄物の一部に関してはリサイクル対策を行うことで、全体のリサイクル目標は約57%となる。引き続き、さらなる上積みを目指して取り組んでいく。

種別	BAU	削減目標				リサイクル目標	
	排出量 [t]	削減量 [t]	削減率 [%]	削減後量 [t]	原単位 [g/人]	リサイクル量 [t]	リサイクル率 [%]
缶	42.8	-	-	42.8	1.5	699.3	100.0
びん	611.5	-	-	611.5	21.7		
業務用缶	45.0	-	-	45.0	1.6		
ペットボトル	562.8	188.2	30.3	433.5	15.4	433.5	100.0
ペットボトルキャップ	58.8						
発泡スチロール・発泡トレイ	5.6	139.9	25.0	419.8	14.9	419.8	100.0
プラスチック類	554.1						
段ボール	1711.7	-	-	1711.7	60.7	1711.7	100.0
紙類	110.4	61.1	55.4	49.2	1.7	49.2	100.0
生ごみ（食品廃棄物）(*)	1501.2	321.2	21.4	1179.9	41.8	1179.9	100.0
廃食用油	110.4	-	-	110.4	3.9	110.4	100.0
燃やすごみ	4181.4	721.9	17.3	3459.5	122.7	-	2.7
堆肥化可能な食器類		-					
割箸							
木製パレット							
紙おむつ							
燃やさないごみ/混合廃棄物	212.8	10.0	4.7	202.8	7.2	19.3	9.5
汚泥（グリストラップ）							
合計	9708.5	1442.3	14.9	8266.2	293.1	4717.8	57.1

注：四捨五入等により数値が合わない場合がある。 排出量は、対策をしなかった場合の排出量推計値（BAU） (*)食品ロスを含む

サーキュラーエコノミーに関する指標：リデュース・リユース、2Rでごみ減量 資源循環に係る排出量推計と目標設定、取組（施設設備関係）

政府の目標を踏まえて、高度なリサイクル目標を設定。リサイクル資材の使用、解体時に分別しやすい建築構造・工法、資機材や建築物のリユース、再生可能な資材を積極的に活用等ガイドラインで推奨した事項を徹底。

会期後に向けて、①大屋根（リング）等木材を丁寧に解体し、リユース ②協会資産に限らず、会場全体の建材・設備機器のリユースのためのウェブ上のプラットフォーム構築等によりリユースを促進する体制を構築。

ミヤク市！ サービスサイト



協会に連絡が届く
需要家候補に移設計画・予算等をヒアリング
NDA締結の上、図面等情報提供
確度が高まれば適宜、公募にかけていく
複数の需要家がいる場合には、公平性をおさえた
出品方法とする

廃棄物量は、一般的に用いられる原単位と面積（建設工事・会期前）からの推計や基本設計を基にした積算（解体工事・会期後）を行った。目標値は、政府の目標値や実績値により決定。

リデュース、リユースに関する目標は建物自体のリユースと設備についてのリユースと二つに分けて考え、会期直前に設定することとする。建物自体のリユースについては、移築の事例が多い1970年を指標とし、当面は少なくとも1970年の件数を上回ることを目標とする。

中小企業、スタートアップの発信機会、新たな共創(co-create)を創出

中小企業の参画数を増やしていくことについて、協賛者のうち中小企業の数を進捗管理の指標とする。

(取組状況)

- ・会場整備参加、運営参加などの協賛者として、中小企業157社に参加いただき、設備機器、資材、情報システム、食品・飲料、衛生用品などを提供いただいている。(2025年2月現在)



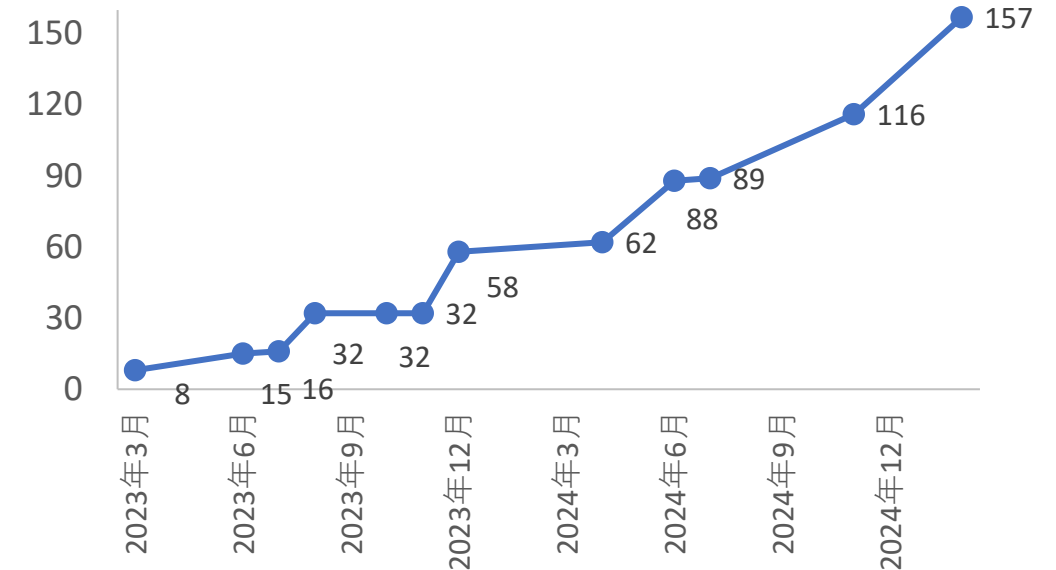
運営協賛の例（衛生用品）

画像出典：河内長野市ウェブサイト（河内長野市役所＞各課のページ＞危機管理課＞新型コロナウイルス感染対策衛生用品が寄贈されました）
（画像と実際の協賛内容は無関係）



運営協賛の例（情報システム）

協賛者のうち中小企業の数(者)



一人一人がつながるコミュニティ形成に関する指標

「TEAM EXPO 2025」プログラム

多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑む、みんながつくる参加型プログラム、「TEAM EXPO 2025」プログラムを実施。プログラムに参加いただいている「共創チャレンジ」「共創パートナー」を中心に様々な方が参加し、新たな「共創チャレンジ」を生み出し・育てていく場を提供する。

(取組状況)

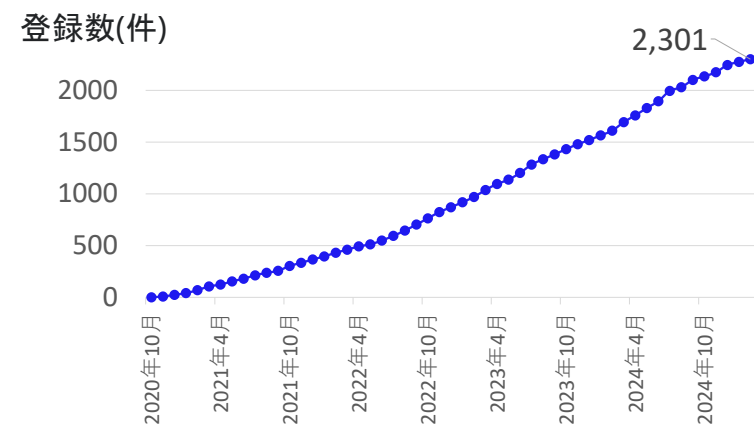
- ・ライフサイエンス、自然環境、文化芸術、教育・人材交流、観光・地域活性化など、2,301件の「共創チャレンジ」を登録。(2025年2月現在)
- ・「TEAM EXPO 2025」プログラム／共創パートナーおよび共創チャレンジによるインタラクティブな情報発信や参加者交流を実施、参加者とともに新たな共創を促進していく「TEAM EXPO 2025 Meeting」を5回開催。

(指標)

参加者の中から約3,000組を募集し、万博会場で、これまでの成果を発表するとともに、来場者、出展者同士など多くの方と「対話」し、未来社会の実現に向けた新たな「共創」を生み出すことを目指す。



第5回「TEAM EXPO 2025 Meeting」会場の様子



共創チャレンジ登録数の推移

大阪・関西万博の持続可能性の取組②

万博を通じて生まれた様々な成果（レガシー）を
後世に継承する取組



「調達コード」の意義（SDGs達成に向けた貢献）

「持続可能性」に配慮した物品・サービスの購入によるSDGs達成への貢献



出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会「基本計画」、国際連合広報センター

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

プラスの効果の拡大

- 博覧会協会が持続可能性に配慮した物品やサービスを調達すると表明し、そのためのルール（調達コード）を策定・公表することで、万博に物品やサービスを供給する事業者等にとって、持続可能性（環境・社会・経済）への配慮指針が明確となる。
- SDGs達成を掲げる万博のイメージ・信頼性が強化されるとともに、事業者の持続可能性の取組が促され、事業者と社会全体にプラスの効果を生み出すことができる。

マイナスの影響の防止

- 万博が調達する物品やサービスに環境面や社会面での問題があると、マスメディアやSNSで取り上げられ、SDGs達成を掲げる万博や企業のレピュテーション(評判)リスクに繋がるおそれがある。
- 事前に持続可能性に配慮した調達コードを設けることで、環境や社会面で問題のある物品やサービスを調達するリスクを低減できる。

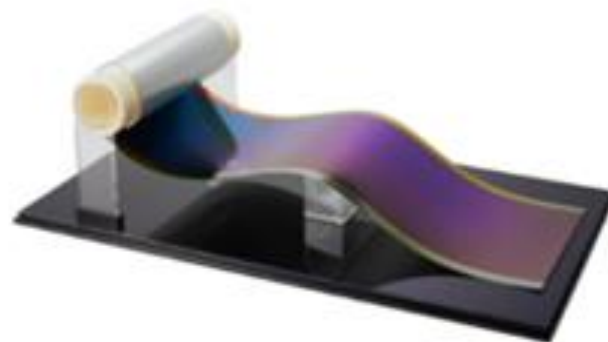
持続可能性に配慮した調達コードに則った調達を行うと、事業者におけるSDGsの取組が促されるとともに、SDGsの考え方に反した物品やサービスを調達するリスクが低下します。

ペロブスカイト太陽光発電システムの実装と展示

ペロブスカイト型太陽電池の特徴

- ・軽量で柔軟性を有している
- ・主原料であるヨウ素を国内で調達できる
- ・シリコン型と同等程度の発電効率

交通ターミナルのバスシェルター部分にフィルム型ペロブスカイト太陽光発電システムを実装し、照明に使用する。



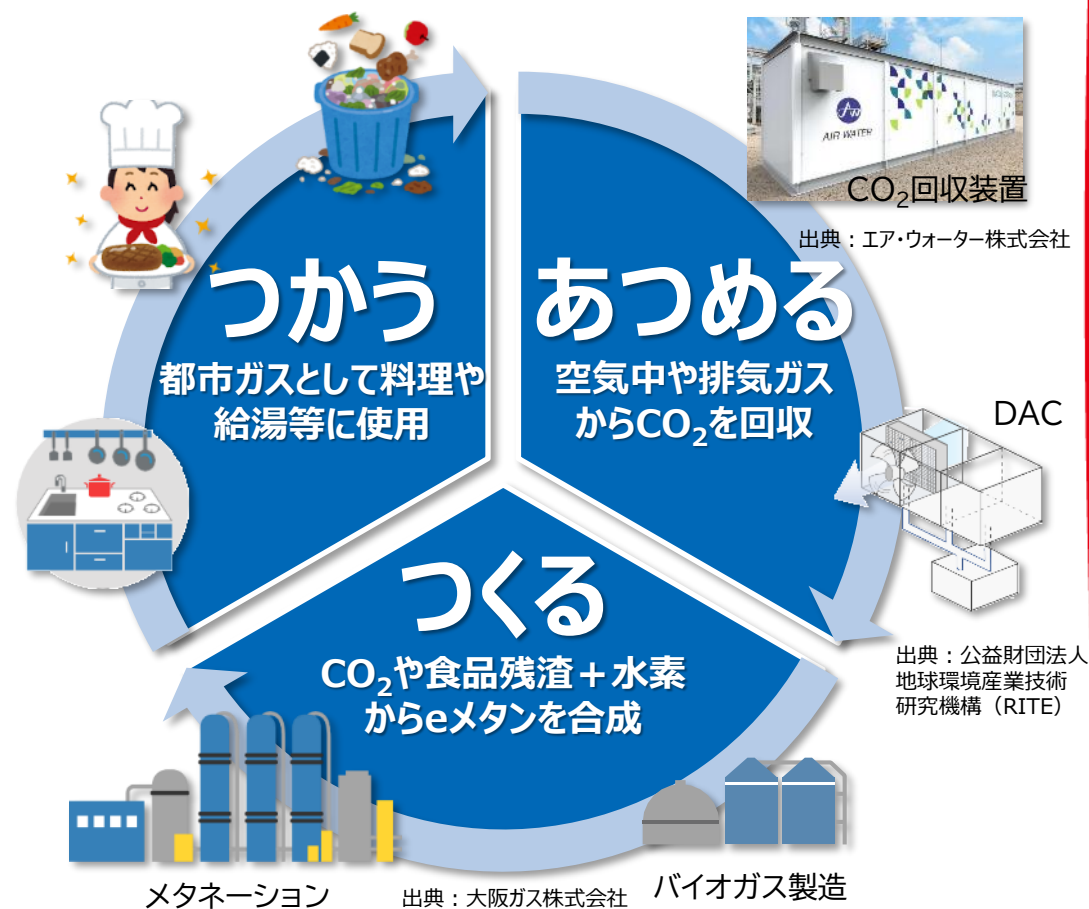
画像出典：積水化学工業株式会社ウェブサイト(HOME>ニュース>2023>2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)への協賛およびフィルム型ペロブスカイト太陽電池の設置について)
※画像の使用については許諾済み



大気や排気ガスからCO₂を回収し、
メタネーション技術により会場内の給湯設備や厨房向けの燃料として利用します



管理区域の“カーボンリサイクルファクトリー”にて先進技術を実証
事前に予約いただいた方がバスで見学可能



※全ての画像については、出展者から許諾済み

会場内の廃棄物発生抑制による排出量の削減対策

廃棄物の発生を抑え、来場者、出展者等に行動変容を促すきっかけを与えます

■ 使い捨て買い物袋の配布対策

- ・来場者にマイバッグ持参の呼びかけ
- ・出展者・営業参加者にはエコバッグ、手さげの紙袋の販売の義務付け

⇒使い捨ての抑制とプラスチックの利用を削減



■ マイボトルの利用促進

- ・給水スポットを最大80か所設置
- ・来場者にマイボトル持参の呼びかけ



⇒ペットボトルなどの利用量を削減

■ リユース食器の導入

- ・使い捨て食器を多く用いるフードトラックエリアへのリユース食器の導入

⇒使い捨てプラスチック食器の利用を削減



■ 食べきれる量のメニュー提供、食べ切りを呼びかけ

- ・小盛メニューなどバリエーションを増やす
- ・来場者への食べ切りの呼びかけ

⇒食品廃棄物の発生を抑制



会場内で発生してしまった廃棄物のリサイクル対策

先進的な取り組みを会場で実施し、社会実装のきっかけを創出します

■ ペットボトルの水平リサイクル

- ・使用済のペットボトルを
ペットボトルに生まれ
変わらせます



出典：PETボトルリサイクル年次報告書2023
(PETボトルリサイクル推進協議会)

■ 生分解性プラスチックの堆肥化

- ・フードトラックエリアの一部で使用
する生分解性プラスチックを会場
内で発生する食品廃棄物と一緒に
堆肥化します



■ 生ごみのバイオガス化・堆肥化

- ・会場内で発生する食べ残しや非可
食部などを会場内でバイオガス化、
会場内のコンポスト機、会場外の
堆肥化施設にて堆肥化します



画像提供：大阪ガス株式会社

■ 難再生古紙の再資源化

- ・会場内では脱プラ・減プラを求めており、
プラスチックの代替素材として紙の利用増
が見込まれる。そのため、リサイクル困難な
使用済の紙製食器などをリサイクルします



給水スポット、マイボトル洗浄機



給水機



ウォーターサーバー



マイボトル洗浄機



回収ボックス

リユース食器



リユース食器返却所



リユース食器の返却状況

堆肥化可能な生分解性プラスチックの食器



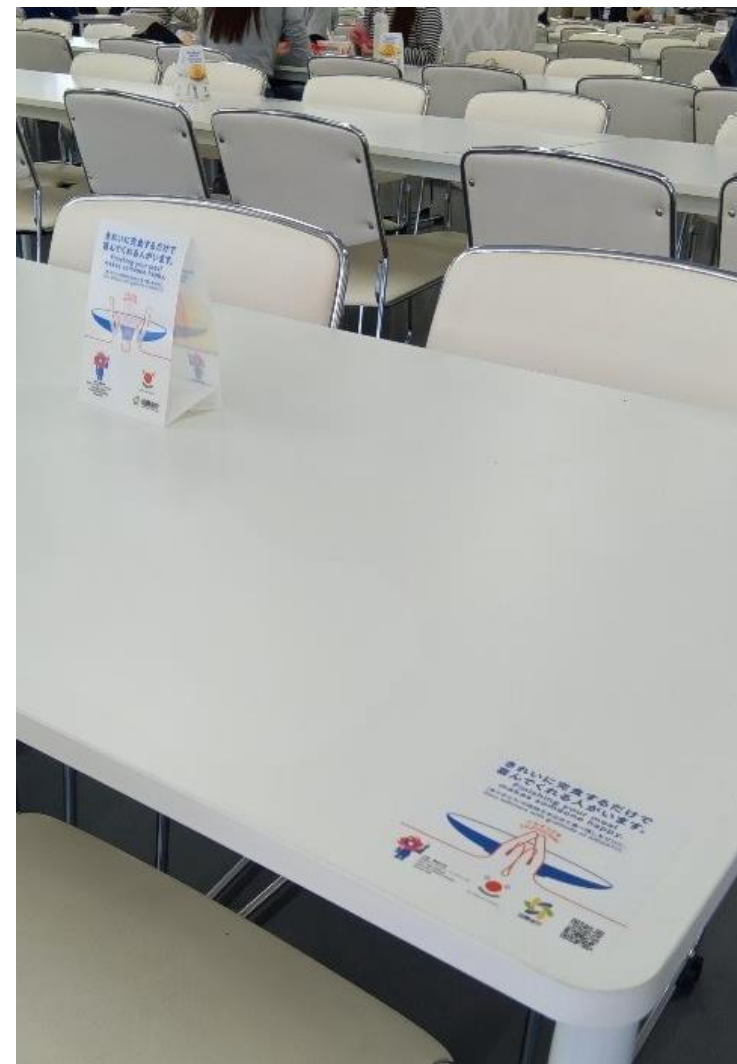
堆肥化可能な食器（カップ、ストロー、カトラリー）



卓上三角POP



ステッカー



設置状況



回収ボックス



回収状況

燃やすごみ



燃やさないごみ



生ごみ



将来に向けた行動変容の取組（EXPOグリーンチャレンジ）

万博会期前から会場外で、企業や学校、自治体などの団体に呼びかけ、脱炭素社会に向けたレガシーとなるよう“万博をきっかけ”とした様々なCO₂削減努力を一体となってい、将来の削減に貢献する。

本取組を「EXPOグリーンチャレンジ」とし、その削減量をカウント、集計し、モニタリングする（2024年3月7日からサービスを開始）。

＜アプリの利用方法＞



アプリをインストール

App Store または Google Play より「EXPO グリーンチャレンジアプリ」をダウンロードしてください。



ポイントを貯める

チャレンジメニューの行動を実施し、アプリに登録。登録後はポイントが付与されます！



景品抽選に応募

貯まったポイントからお好きな商品を選択し、景品抽選にチャレンジ！



景品が当たる

ご応募後、抽選で景品が当たります。ポイントに有効期限はありませんので、いつでも応募可能！



※1クレジットなど第三者認証機関の認証を得ているものに関しては、万博のGHG排出とのオフセットとして活用する。

※2廃油から精製した高純度バイオディーゼルを、会場内や会場建設建機で使用することで、万博におけるGHG排出量の削減に貢献。

万博サーキュラーマーケット ミヤク市！

万博サーキュラーマーケット

ミヤク市！



サテライトスタジオ（東）

博覧会協会
会場施設

公開中



EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」

博覧会協会
会場施設

公開中



休憩所3

博覧会協会
会場施設

公開中



迎賓館

博覧会協会
会場施設

公開中



EXPO ホール「シャインハット」

博覧会協会
会場施設

公開中



トイレ6

博覧会協会
会場施設

公開中



シグネチャーパビリオン
いのちの遊び場 クラゲ館

博覧会協会
パビリオン

公開中



シグネチャーパビリオン
「いのちめぐる冒険」

博覧会協会
パビリオン

公開中



シグネチャーパビリオン
「Dialogue Theater -いのちのあかし-」

博覧会協会
パビリオン

公開中



休憩所4

博覧会協会
会場施設

公開中



ポップアップステージ（東外）

博覧会協会
会場施設

公開中



トイレ1

博覧会協会
会場施設

公開中



トイレ3

博覧会協会
会場施設

公開中



ポップアップステージ西

博覧会協会
会場施設

公開中



休憩所2

博覧会協会
会場施設

公開中



大屋根リング

博覧会協会
会場施設

公開中



お弁当広場（GW）

博覧会協会
会場施設

公開中

- ・ミヤク市！は万博会期後に残った施設、建材・設備のリユースを目的とした需要と供給をマッチングさせるサービスサイトです。
- ・2025年6月1日現在、全456件の施設・設備について公募を行い、リユース先を決定していくこととしています。



詳しくは「ミヤク市！」で検索してご覧ください。

<https://www.reuse-materials.jp/>



BLUE OCEAN DOME

建築の特徴 | Features

建築家 坂 茂 | Architect Shigeru Ban

新しい技術で実現した、廃棄物が生じないドームです。

現在、地球上でいちばん重要な課題は環境問題です。今回の万博でつくられたパビリオンも解体され、大量のごみになってしまう。CO₂を吸った木材も、こみしてしまっただけなら環境に良いとはいえませんが、物は地下に杭を打ち込む必要がありますが、万博など、会期後には捨てられています。

万博のもっとも重要な目的は、新しい技術の提案です。竹、竹、カーボンファイバー、再生紙という3つの新しい材料を実現しています。軽い材料でできているので、杭が打つ前に、解体しやすい構造としており、会期後には別のことが決まっています。

01 BAMBOO DOME
02 CFRP CARBON FIBER REINFORCED PLASTICS DOME
03 PAPER TUBE DOME

建設中
建設中
建設中

建設中
建設中
建設中

ゼリジャパン

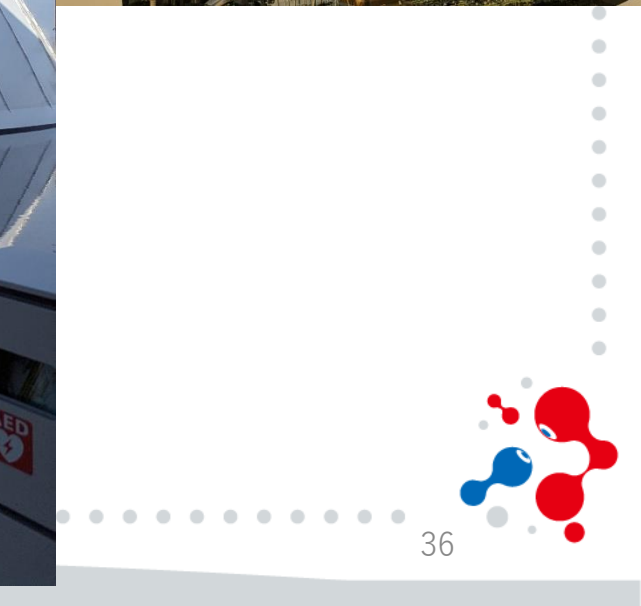
大阪・関西万博からモルディブへ

From Osaka, Japan to the Maldives

ブルーオーシャン・ドームは、万博の会期終了後、坂 茂 が建築設計を担当するモルディブ共和国の海洋リゾートに移設される予定です。

海の資源を活用し続けること、海の生き物たちの安全を守ることが世界中に発信し、国際社会と人々の行動変容を目指すこのパビリオンが、インド洋に浮かぶ群島の片隅で海と人をつなぐ新たな拠点となることを願っています。

After EXPO 2025 Osaka, Kansai, Japan, the BLUE OCEAN DOME will be relocated to a marine resort designed by Shigeru Ban in the Republic of Maldives. The objective of this pavilion is to raise awareness of sustainable engagement with the oceans and the importance of protecting marine life, inspiring transformations in the way that international society and humanity approach our oceans. After the EXPO, the pavilion will continue this mission at its new location, bringing the ocean and people together at a peaceful spot in the Maldives, surrounded by the Indian Ocean.



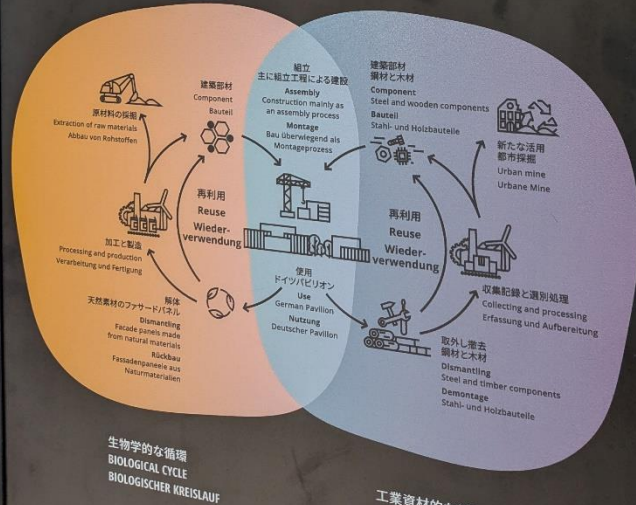
資材庫としての ドイツパビリオン

THE GERMAN PAVILION – A MATERIAL WAREHOUSE
DER DEUTSCHE PAVILLON ALS MATERIALLAGER

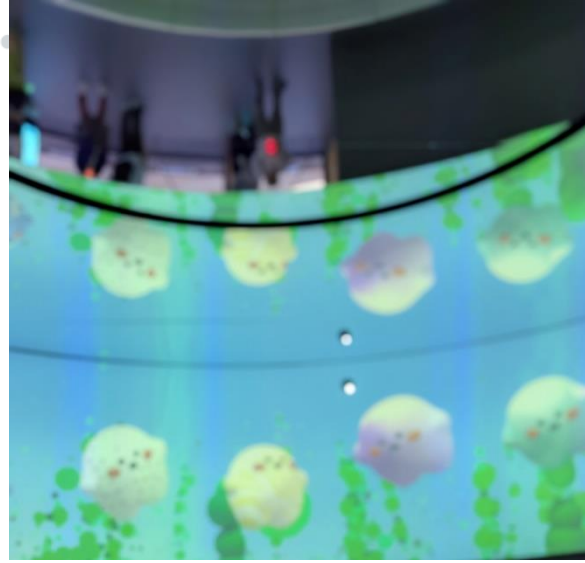
さまざまな物質循環は互いに密接に関わり合っています。この相互依存性に注目して、パビリオンは設計されています。賢いデザインとイノベーションを通して資材を最大限に再利用、再資源化することで、パビリオンは廃棄物を出さないようにしています。

Many of our material cycles are interlinked. The pavilion was designed in full awareness of these interdependencies. It avoids waste through clever design, innovative applications and by maximised reuse and recycling of resources.

Viele Stoffkreisläufe sind miteinander verknüpft. Der Pavillon wurde in vollem Bewusstsein dieser Abhängigkeiten entworfen. Er vermeidet Abfall durch kluges Design, Innovation sowie die Maximierung der Wiederverwendung und des Recyclings von Materialien.



ドイツ



ビジョンを現実に

FROM VISION TO REALITY
VON DER VISION ZUR REALITÄT

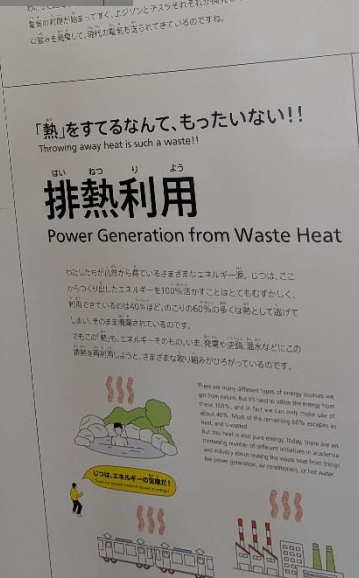
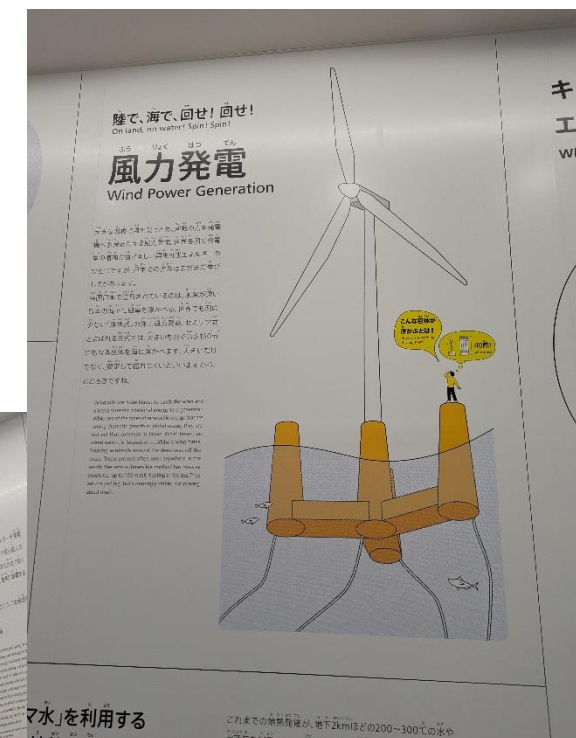
自然と共生する暮らし

物質循環の系を閉じるためには、個人、産業界、社会のそれぞれが力を合わせる必要があります。大規模なモデルプロジェクトからスタートアップまで、ドイツでは識者が知恵を絞りあい、持続可能な暮らしに関わる共通のビジョンを実現するために国際連携を進めています。



ガスパビリオン

電力館



- (参加団体)※順不同

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会

